

高知市中心部 民権史跡 一覧

高知市中心部 民権史跡 案内図



自由は土佐の山間より

利用案内

観覧時間 午前9時30分～午後5時
休館日 月曜日、祝日の翌日、祝日が月曜日と重なる場合にはその翌日(ただし、土・日・祝日の場合は開館)、12月27日～1月4日
観覧料(常設展) 高校生以下は無料です。

	区 分	金 額
個 人	一般(18歳以上、ただし高校生を除く)	320円
団 体	20人以上1人につき	250円

65歳以上の方、並びに療育手帳、身体障害者手帳及び精神障害者保健福祉手帳所持者とその介護者1人については無料

交通のご案内
[交通機関ご利用の場合]
電車…棧橋車庫前(自由民権記念館前)下車 バス…棧橋通4丁目下車

高知城から……………路面電車またはバスで20分、車で15分
桂浜から……………バスで30分、車で20分
はりまや橋から……………路面電車またはバスで10分、車で5分
JR高知駅から……………路面電車またはバスで15分
高知龍馬空港から……………空港バスと路面電車で50分、車で30分
高知インターチェンジから……………車で15分



高知市立自由民権記念館
〒781-8010 高知市棧橋通4丁目14-3
TEL 088-831-3336 FAX 088-831-3306
https://www.f-minken.jp/

高知市中心部民権史跡案内図

発行
高知市総務部 民権・文化財課
TEL 088-832-7277 FAX 088-831-3378
E-mail kc-052000@city.kochi.lg.jp

印刷
弘文印刷株式会社

2024(令和)6年8月

01 植木枝盛生誕地 うえきえもりせいたんち

A-3 中須賀町

植木枝盛(1857・安政4-1892・明治25)。自由民権運動の理論的指導者として、演説や機関紙の編集、執筆に活躍し、多くの重要な文書を起草した。衆議院議員となったが、第2回総選挙を前に東京で死去。(関連史跡⑩)



02 嶽洋社跡 がくようしゃあと

B-3 上町2丁目(第四小学校正門横)

民権結社。複数の結社が合併してできたため、大きな勢力を誇った。ここから安芸喜代香、坂本南海男(直寛)らの、著名な民権家が出た。



03 婦人参政権発祥之地 ふじんさんせいけんはっしょうのち

B-3 上町2丁目(第四小学校正門横)

1880(明治13)年、上町町会では男女平等の参政権を盛り込んだ「町会規則」を作り、日本最初の女性参政権が実現した。「男子にして婦人に投票し、婦人も亦男子に投票した」と伝わる。



04 植木枝盛旧邸跡 うえきえもりききゅうていあと

B-2 桜馬場

1878(明治11)年、植木枝盛一家は土佐郡井口村中須賀(現 高知市。⑩参照)からこの地に転居。枝盛が多くの政治文書を執筆した書斎は、高知市立自由民権記念館内に移築復元されている。



05 開成門 かいせいもん

B-2 小津高校西南詰

開成館(⑫参照)の表門が、三度の移転を経て、現在地に残っている。薬医門の両側に袖塀を擁する、藩政時代の貴重な遺構として、1957(昭和32)年に高知県保護有形文化財に指定された。



06 致道館並陶治学校跡 ちどうかんならびとうちがっこうあと

B-2 城西公園南東詰(県立武道館前)

1862(文久2)年に藩校として設立。文武館からのに致道館と改称。西洋の学術も教え、多くの民権家が少年時代にここで学んだ。明治(高知同じ場所)に陶治学校(高知師範学校の前身)が置かれた。



07 織田歯科医院 おだしかいいん

B-3 弁形4-14

民権家・織田信福が1885(明治18)年に開業した医院。この建物は二代目の院長・正敏が1925(大正14)年に建設。県内最初の鉄筋コンクリート造の建物として、平成28年に国の登録有形文化財となった。



08 馬場辰猪生誕地 はたつせいたんち

B-3 弁形(称名寺前)

馬場辰猪(1850・嘉永3-1888・明治21)。イギリスに留学し、帰国後は自由民権運動を代表する理論家として活躍した。後に渡米し、日本政府を批判する活動中、フィラデルフィアで死去。文学者の馬場孤蝶は実弟。



09 高知教会 こうちきょうかい

B-3 本町5丁目

1885(明治18)年5月15日に総員21名で設立、自由民権運動の幹部であった片岡健吉・坂本龍馬の洗礼を受けた。その後も民権家が相次いで入信した。多くの民権家がキリスト教を信仰した理由について、片岡健吉は、武士道精神とキリスト教に共通点が多かったためだと述べている。



10 一円正興記念碑 いちえんまさおきねんひ

B-3 本町5丁目

一円正興(1848・嘉永元-1914・大正3)。立志社の一等発起人となり、修立社(⑫参照)の社長を務めた。1889(明治22)年に高知市の初代市長となり17年間在職。



11 板垣退助像 いたがきたいすけぞう

C-2 丸ノ内1丁目(高知公園内・高知城登城口横)

桂浜の坂本龍馬銅像も作った本山白雲(宿毛市出身)が1923(大正12)年に制作するが、戦時中に軍需資材として供出。現在の像は1956(昭和31)年に再建されたもので、香南市夜須町出身の浜口青果が制作した。



12 片岡健吉像 かたおかけんきちぞう

C-3 丸ノ内1丁目(県議会議事堂入り口横)

片岡健吉(⑩参照)は、1879(明治12)年、高知県議会初代議長。1916(大正5)年に、銅像が建立(本山白雲 作)されたが、戦時中に軍需資材として供出。現在の像は1963(昭和38)年に再建されたもので、香南市夜須町出身の浜口青果が制作した。



13 有信社跡 ゆうしんしゃあと

C-2 愛宕町1丁目(江ノ口コミュニティセンター)

民権結社。1877(明治10)年設立。主に江ノ口の有志によって構成された。社長は立志社一等発起人の伊東物部で、ほかに、のちに大阪事件に連座する波越四郎や、「土佐拳兵計画の真相」の著者広瀬為興がいた。



14 坂崎紫瀾邸跡 さかさきしらんていあと

C-2 廿代町

坂崎紫瀾(1853・嘉永6-1913・大正2)。1881(明治14)年、高知県内での政談演説を1年間禁止された。そこで「馬鹿林一座」を立ち上げ、民権演説を行うも、不敬罪で拘引された。坂本龍馬の最初の伝記小説「汗血千里の駒」は、このころ坂崎が新聞に連載した。



15 回天社跡 かいてんしゃあと

C-3 帯屋町2丁目(帯屋公園北)

民権結社。旧藩時代から存在していた士格・軽輩による小集団が離合集散しながらできた政社の一つ。1877(明治10)年頃以降は、他の政社とともに立志社の傘下に入り、1887(明治20)年頃まで活動した。



16 板垣退助生誕地 いたがきたいすけせいたんち

C-3 本町2丁目(高野寺前)(⑫参照)

板垣退助(1837・天保8-1919・大正8)。戊辰戦争では土佐藩兵を率いた。自由民権運動の象徴的人物として活躍、1881(明治14)年に日本初の政党・自由党の総理となる。翌年、岐阜の演説会で暴漢に襲われた際「板垣死すとも自由は死せず」と叫んだ。



17 片岡健吉生誕地 かたおかけんきちせいたんち

C-3 本町2丁目

片岡健吉(1843・天保14-1903・明治36)。イギリスに留学後、板垣退助とともに立志社を設立し社長に就任、自由民権運動の中心で活躍した。高知県議会初代議長、衆議院議長。クリスチャンとして同志社社長兼校長も務めた。



18 後藤象二郎生誕地 ごとうしょうじろうせいたんち

C-3 与力町(天神橋北詰)

後藤象二郎(1838・天保9-1897・明治30)。義叔父・吉田東洋の富国強兵路線を継ぎ開成館を開設。山内容堂と連署して大政奉還建白書を提出、のちに板垣退助とともに、自由民権運動に参画した。大同団結運動においても指導的な役割を果たした。



19 立志社跡 りっししゃあと

C-3 帯屋町1丁目(中央公園東端)

立志社は当初、旧開成館(高知市九反田。⑫参照)に置かれたが、1876(明治9)年頃、この地に転移。機関誌の発行、政談演説会の開催、立志学舎での人材育成などを行い、自由民権運動の最大・最高の結社となった。



20 中江兆民生誕地・兆民通り なかえちゆうみんせいたんちちゆうみんどおり

D-2 はりまや町3丁目

中江兆民(1847・弘化4-1901・明治34)。自由民権運動の代表的思想家。フランスに留学し、帰国後は仏学塾を開いた。フランスの思想家ルソーの「民約論」を翻訳し、「東洋のルソー」と称される。生誕地前の通りは彼にちなみ「兆民通り」と呼ばれている。



21 共行社跡 きょうこうしゃあと

D-2 桜井町1丁目

民権結社。1880(明治13)年10月、社長の水野寅次郎らの、板垣退助との見解の相違のために、立志社から分離。連合各社との交際も絶ち、批判を浴びた。1891(明治24)年、求友会と改称。



22 修立社跡 しゅうりつししゃあと

D-3 南はりまや町2丁目

民権結社。15歳以上の正社員と15歳未満の準社員で構成し、毎日4時間の授業を行った。夜学会にも参加して、民権思想の普及に努めた。1882(明治15)年1月、社員森田馬太郎が、不敬罪適用の第1号となった。



23 北光社移民団出航の地 ほっこうしゃいみんだんしゅつこうのち

D-3 農人町

北光社は、高知のキリスト教徒の民権家たちが設立した合資会社。初代社長は、坂本龍馬の甥で自由民権運動で活躍した坂本直寛。北海道移民を募り、クネネップ原野を開拓し、現在の北見市の礎を築いた。



24 開成館跡・憲政之祖国碑 かいせいかんあと・けんせいのそこひ

E-3 東九反田公園

開成館は1866(慶応2)年、土佐藩の殖産興業・富国強兵を目的に開設。のちに藩の迎賓館となり、1871(明治4)年には、西郷隆盛・木戸孝允・大久保利通の維新三傑と板垣退助、福岡孝弟が会談。1874(明治7)年には立志社・立志学舎が創設され、自由民権運動発祥の地となった。2007(平成19)年、高知市史跡に指定。



25 龍乘院 りゅうじょういん

D-1 比島町2丁目

山内一豊の帰依を受けた、日讃を開山とする天台宗の寺院。山門はかつて中島町(現本町2丁目)にあった板垣退助邸(⑬参照)の門を移築したもの。



26 丸山台 まるやまだい

F-4 鏡川河口

鏡川の河口に浮かぶ小島。板垣退助がヨーロッパ外遊から帰った際、盛大な祝宴が催された(⑯参照)。島の中央には、「其ノ盛観実ニ未ダ嘗テ見サル所」と記した記念碑がある。



27 板垣退助帰朝記念碑 いたがきたいすけちゆうきねんひ

E-4 新田町(鏡川南岸堤防上)

1883(明治16)年、板垣退助がヨーロッパ外遊から帰り、浦戸丸で帰高したとき、土佐の人々は数百艘の小船で出迎えた。歓迎に集合した人は「無慮五千人」と当時の新聞は報じている(関連史跡⑯)。



28 板垣退助邸跡 いたがきたいすけいあと

E-5 萩町2丁目(東洋電化工業入り口横)

板垣退助の住居跡。立志社の活動が全国に知られたらにつれて、県内外の多数の民権家がこのを訪れ、土佐の民権家と交流した。相模が好きなら板垣は邸内に相模場を作り、力士の養成も行った。



29 海南自由党結成の地 かいなんじゆうとうけっせいのみち

C-4 筆山町(要法寺)

1882(明治15)年5月7日、高知県下7郡の民権派の総代百余人が要法寺に集合して、海南自由党を結成。「海南自由党規約」と「規則」を決議した。常備員には片岡健吉、武市安哉など5人が選ばれた。



30 発陽社跡 はつようしゃあと

C-4 天神町(天神橋南)

民権結社。北川貞彦が社長を務め、県外の民権結社との交流を深めた。河野広中、頭山満などが来高の際訪問。社員弘瀬重正(⑳参照)は、嶽洋社の西原清東とともに、福島県三春の正道館の講師に招かれた。



31 楠瀬喜多の墓 くすのせきたのほか

C-4 塩屋崎町2丁目

楠瀬喜多(1836・天保7-1920・大正9)。夫の死後、戸主となって納税するが、選挙に際して、女性には選挙権がないと断られたため、「権利がないなら納税義務もないはず」と主張。これがわが国初の女性投票権の要求とされている。民権家とも交流があり、「民権婆さん」と呼ばれた。



32 弘瀬重正顕彰碑 ひろせしげまさけんしやうひ

D-4 塩屋崎町1丁目(潮江西ノ丸公園内)

弘瀬重正(1860・万延元-1922・大正11)。発陽社社員として、自由民権運動で活躍。1891(明治24)年には、潮江村の村会議員となり、1898(明治31)年から10年間村長を務め、就任中には潮江のために多くの事業を行った。



自由民権運動と自由民権記念館

自由民権運動は、明治時代の前半に、国会開設・憲法制定などの諸要求を掲げて全国的な規模で展開された、わが国初の民権運動です。この自由民権運動において土佐は多くの優れた人材を輩出しています。また、運動の先駆性、理論水準の高さにおいても他に優れたものを示し、全国の運動の中心的な役割を果たしました。

高知市は市制100周年に当たり、これら土佐の先人が残した輝かしい業績を後世に正しく伝え、新しい歴史創造の糧として未来に生かすため、自由民権記念館を建設しました。1990(平成2)年の開館以来、自由民権運動を中心とする



D-6 高知市立自由民権記念館

[掲載画像] ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

33 岡本方俊記念碑 おかもとまさとしきねんひ

D-4 塩屋崎町1丁目(潮江西ノ丸公園内)

岡本方俊(1866・慶応2-1914・大正3)。自由民権運動に参加、1887(明治20)年の三大事件建白運動では爆弾を製造した。1904(明治37)年の高知新聞創刊に参画、初代社長となった。



34 自由民権通り碑 じゆうみんけんどおりひ

D-5 棧橋通2丁目(高知工業高等学校正門内)

周辺に自由民権記念館、板垣退助邸跡、竹内綱・横山又吉の胸像、弘瀬重正・岡本方俊の顕彰碑などがあるため、はりまや橋から棧橋通5丁目にかけて、「自由民権通り」の愛称がつけられている。



35 竹内綱胸像 たけうちつなきやうぞう

D-5 棧橋通2丁目(高知工業高等学校正門内)

竹内綱(1839・天保10-1922・大正11)。自由民権運動家、政治家、実業家。1912(明治45)年、高知県発展の基礎を作るため「工業富国の基」の理念から工業技術者の養成を目指し、長男の明太郎とともに私立高知工業学校(現・県立高知工業高等学校)を創立。後の内閣総理大臣吉田茂は五男。



36 横山又吉像 よこやまたきちぞう

D-4 棧橋通2丁目(アスパル高知玄関横)

横山又吉(1855・安政2-1939・昭和14)。1887(明治20)年、三大事件建白運動で上京。保安条例の退去命令を受け、横浜まで退いたが「保安条例廃止建白書」を携え再び上京、逮捕投獄された。後年、高知商業学校の名校長として知られた。



37 山嶽社跡 さんかくしゃあと

土佐山内川

民権結社、山嶽社の拠点となった場所。板垣退助の秘書だった和田三郎の生家でもある。2004(平成16)年には高知市史跡に指定された。現在の建物は1991(平成3)年に復元されたものである。



高知市中心部 民権史跡案内図



「自由は土佐の山間より」の言葉が表すように、土佐は日本最初の全国的民主主義運動である「自由民権運動」発祥の地であり、市内には民権運動に関連した史跡が数多くあります。ぜひ、この案内図を手にとりそれらを探って、明治という新しい時代に、先人達が活躍した歴史の足跡をお確かめいただけたらと思います。

